



現代美術部門一席
【特別賞】青木賞（市長賞）受賞作品
いつも会話のツールはスケボーだった
Atelier Madoka

— 第30回 —
川西市展
入賞作品

洋画

日本画

書

彫刻・立体造形

工芸

写真

現代美術

2022
KAWANISHI
ART EXHIBITION

特別賞

青木賞（市長賞）

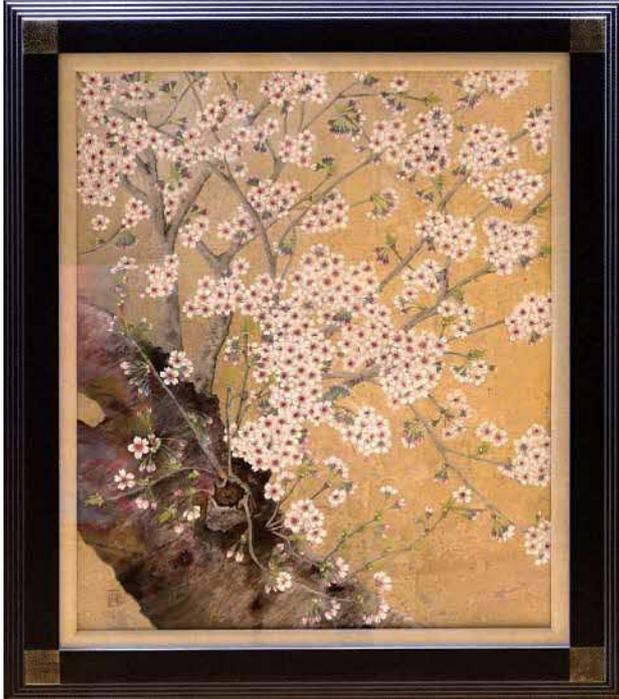


現代美術部門

いつも会話のツールはスケボーだった
Atelier Madoka

特別賞

平通賞（議長賞）



日本画部門

桜
羽田野 幸代

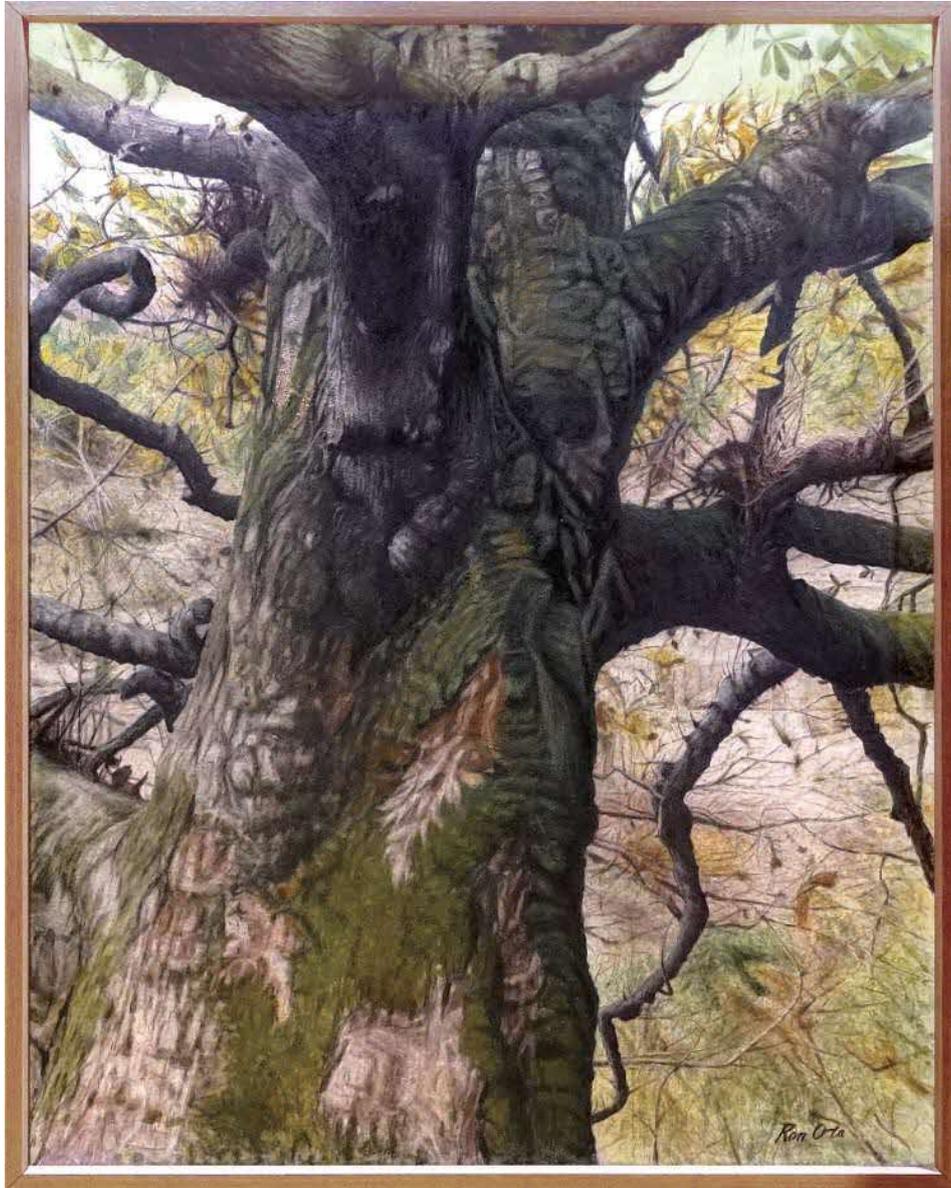
川西市美術協会賞



彫刻・立体造形部門

6体の天使の猫
(Six bodies of Angels' cats)
シュウ

一席



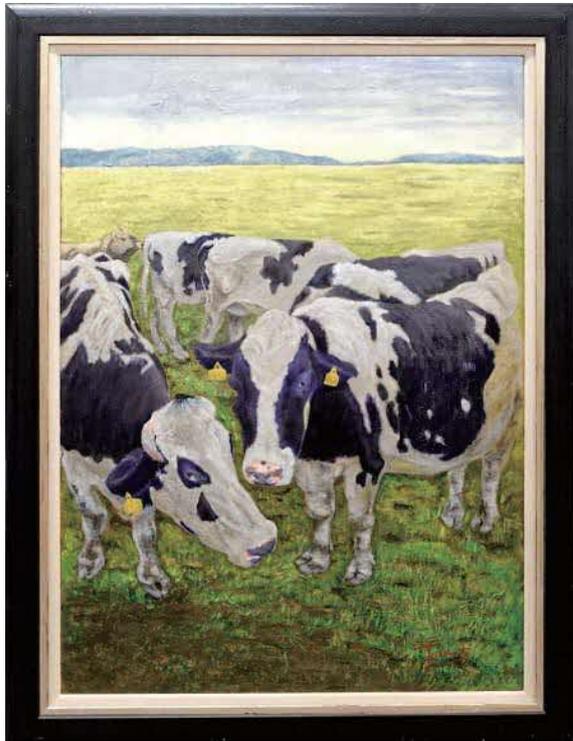
巨樹
太田 連

講評 (松村 一夫・大東 明宏)

太い幹の老木が立っている。樹肌についた苔が生きてきた長い年月を物語っている…。画面いっぱいに樹を捉えることで、長い歴史の空気を吸ってきた巨樹のつぶやきも聞こえてくるようです。背景もうまく処理されて主役の樹を引き立てています。

洋画の部

二席

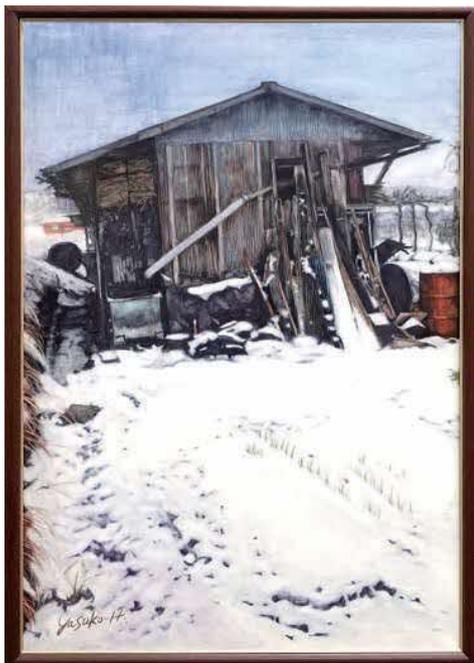


ファミリー
坂田 稔子

講評 (松村 一夫・大東 明宏)

油絵の重厚な作品です。六頭の牛が描かれていますが、それが一つのフォルムとなり、牛の模様も繋がって魅力的な表現になっています。足元の牧草から背後の山にまで広がる空間は緑色を中心とした美しい色調です。

三席



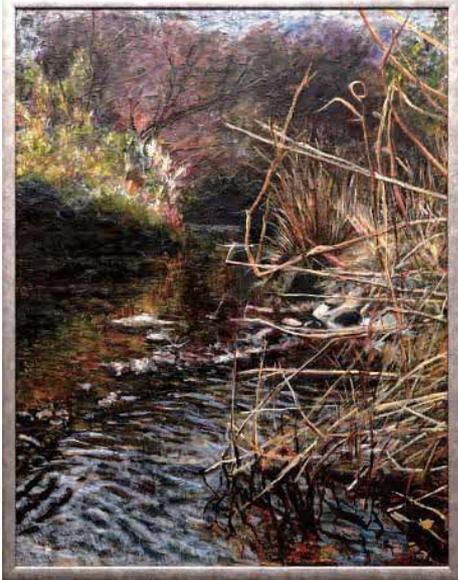
冬の葡萄小屋
久田 泰子

講評 (松村 一夫・大東 明宏)

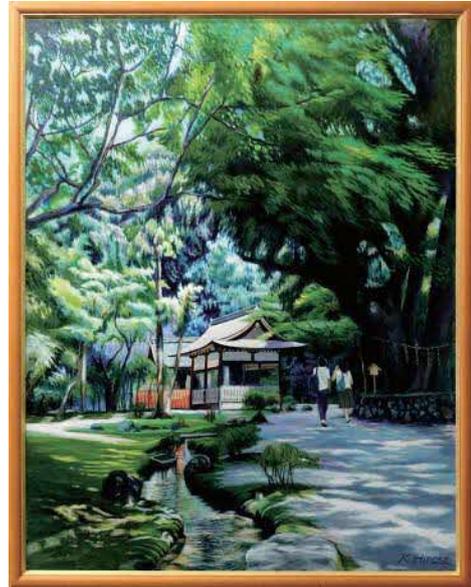
白く柔らかな雪と暗い納屋の対比が、画面に緊張感を生んでいます。また、トタン板の壁やそれに立てかけられている木材、周囲のドラム缶など、どれも質感を意識して丁寧に描き込まれた力作です。

洋画の部

奨励賞



笹部の溪流
淀井 多美子



曲水の社II
広瀬 敬三



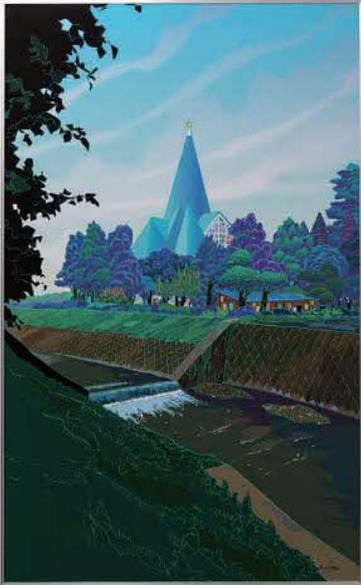
凍れる
稲垣 泰造



陽のある風景
森永 節子

洋画の部

奨励賞



天神川沿いのサンシティホール
早川 博唯



野辺に刻降りて
渡辺 良子



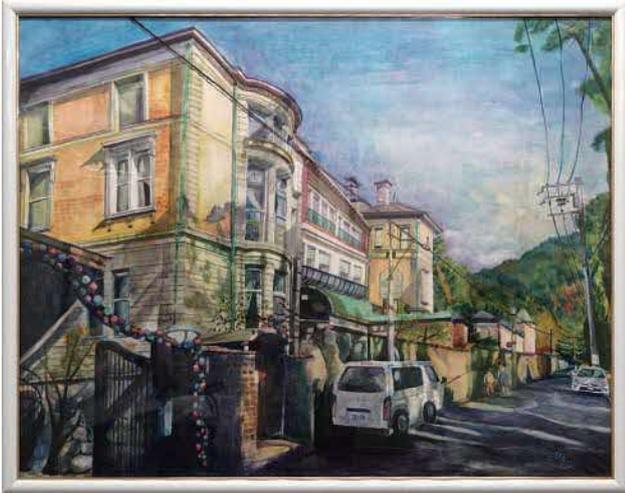
バンドンの朝市
濱田 武文



花の行方
淵上 登美

洋画の部

奨励賞



東山の洋館
中島 広子

講評(松村 一夫・大東 明宏)

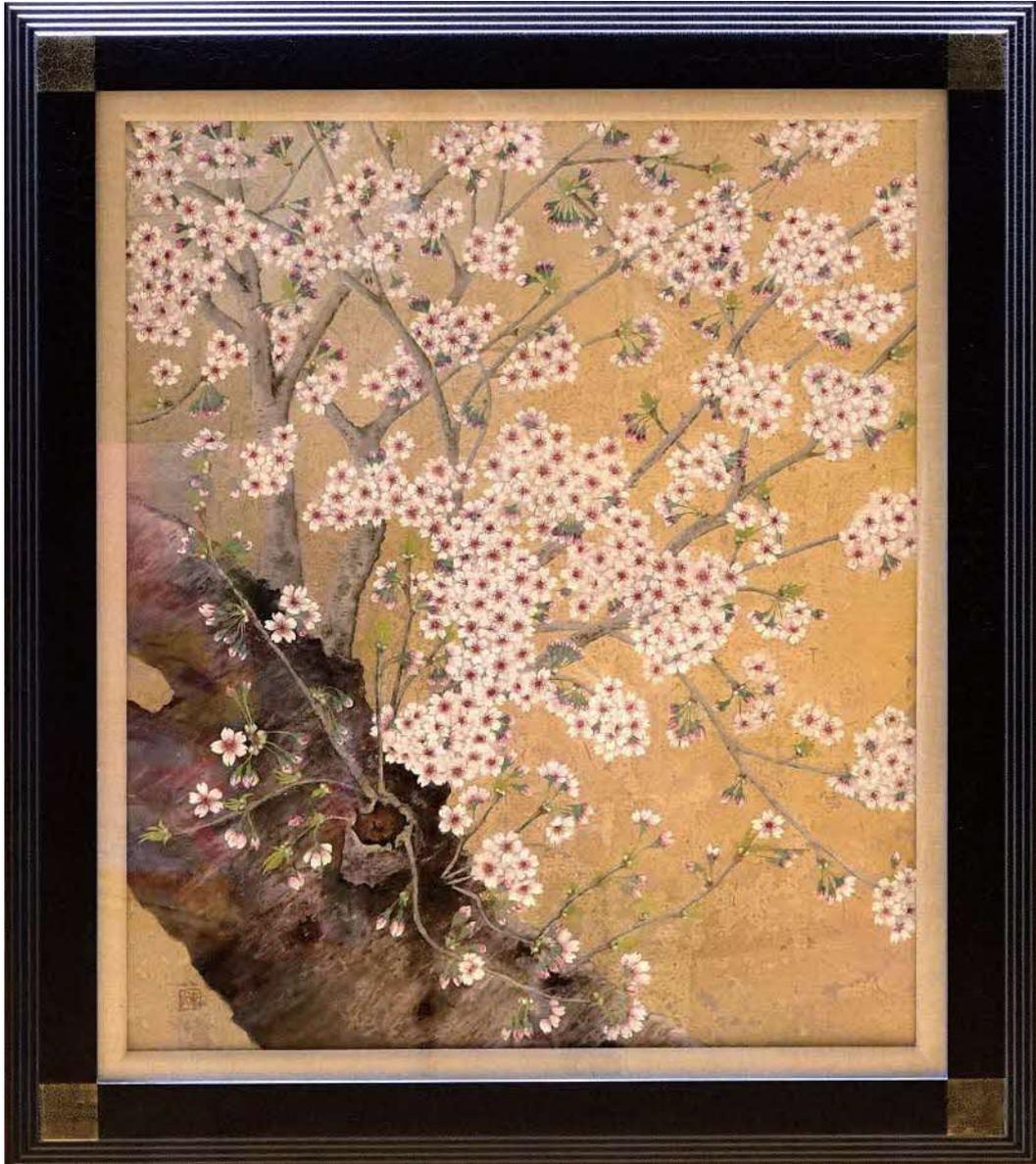
奨励賞の作品は、どれも時間をかけて描き込まれた三賞に負けない作品が多く、選考に大変苦労しました。形を正確に捉えることや質感を感じさせることはもちろんですが、作者が何を表現したいかを明確にし、作品を見る人にどう見せるかを工夫すれば、より説得力のある作品になるかと思えます。

今年は少し小さな絵が目立ちましたが、多くの力が入った作品を見ることができました。

一つ欲を言えば、対象を写し取るだけでなく、作者の意図も感じられる「絵づくり」を意識すれば、より魅力的な作品になるのではないかと感じました。

また来年も楽しみにしています。

一席／平通賞（議長賞）



桜
羽田野 幸代

講評（井上 美紀・田中 達也）

桜の木の描写もさることながら、背景の美しさに目を奪われました。箔を多用しながらも上品にまとめた画面から作者の桜の木に対する想いを感じとれた秀作です。

日本画の部

二席



何を見てんの
河内保

講評（井上 美紀・田中 達也）

画面全体の隅々まで描き込まれている力強い作品です。その反面、全部が同じになり、やや単調になった感じがあります。どこかを光らす又は暗くするなど、大きな変化があると更に良くなると思います。

三席



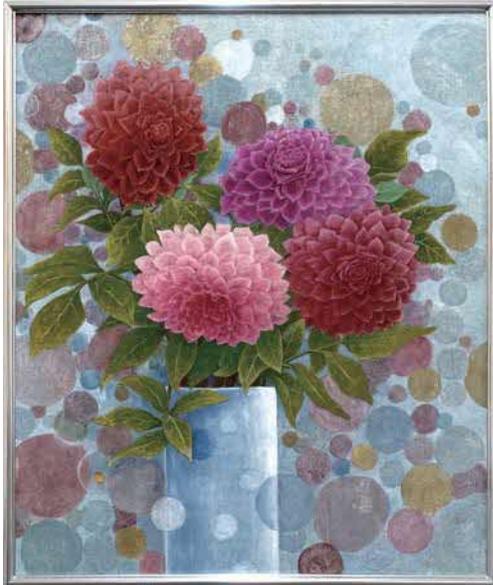
紅梅
道畑 常美

講評（井上 美紀・田中 達也）

霧の中からうっすらと浮かび上がってくるような紅梅の姿がとても印象的でした。全体的に単調にならないようピンクや赤で色のメリハリがついて、画面に心地よいリズムがありました。

日本画の部

奨励賞



響き合う心
竹澤 弘美



野辺の秋
森崎 康文

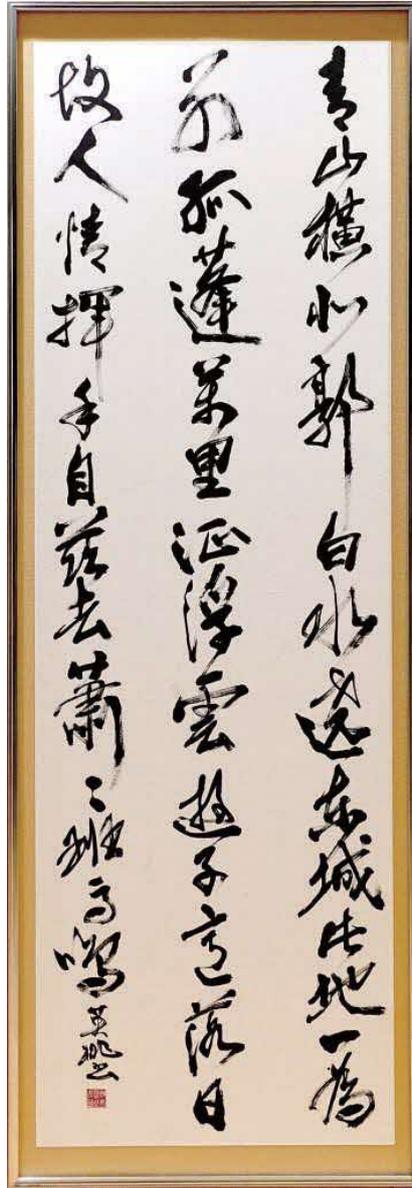
講評 (井上 美紀・田中 達也)

奨励賞「響き合う心」は、構成・色・花や空間の表現や絵具の扱い等が良く完成度の高い作品で注目しました。

奨励賞「野辺の秋」は、画面全体から柔らかい温かな空気が流れる作品でした。色の構成も良く、秋の色感が良く出ていたと思います。花の写生をもっとして存在を描くことでより作品に輝きが出ると思うので頑張ってください。

書の部

一席



送友人
畑本 英桃

講評 (塚田 洵河・和田 英翠)

線の出し方が良く出ています。鋭い所と字の太い細い、又は字の大小が出来ていました。

書の部

二席



七里灘
和田 掃花

講評 (塚田 洵河・和田 英翠)

横文字の難しいとする行間が良く出来ていました。どっしりと字の運び、バランスが良く全体に調和され良かったです。

三席



大内方舟詩
小寺 翠恵

講評 (塚田 洵河・和田 英翠)

真っ直ぐに美しく出来ていましたが、欲を言えば字の横幅で大小をつければ一席に行くことが出来るように思いました。

書の部

奨励賞



丹田
中島 久夫



大伴家持のうた
川口 登美子



心華
福岡 淳

講評 (塚田 洵河・和田 英翠)

今年の作品は全体に粒揃いで、甲乙つけがたくて大変でした。昨年よりレベルの高い作品が目に入りました。もっと力強く墨を入れると良いかもしれません。また、最後の落款までが作品です。しっかりと押す位置を工夫してください。

来年の皆様の作品が楽しみです。
力作を期待しています。

一席 / 川西市美術協会賞



6体の天使の猫 (Six bodies of Angels' cats)

シュウ

講評 (堀野 利久・長野 久人)

昨年、大阪北新地ビル殺人放火事件の鎮魂を願って作った作品であると作家はコメントしています。麦わら帽子を使って作られた猫は、斬新であります。目は、刃物でキリリと切られて鋭く、この事件への怒りともとれる表情は、現実への批判とも取れます。6体の天使の猫は、作者の思いをやさしく語りかけており、力強いと感じます。今回の市展でこの作品に出会うことができ良かったです。

彫刻・立体造形の部

二席



先を思う
神山 美登里

講評 (堀野 利久・長野 久人)

今の時代を考え思い思案する人を表現されています。思う姿、悩む心、先を考える力強さ、確かな造形力で実力のある作品です。

三席



ブンブン遊び
竹内 清

講評 (堀野 利久・長野 久人)

イタチがカナブンを紐で結んで遊んでいる作品です。いたづら好きなイタチを擬人化して、木彫りでつくられた像は上を向き、ぴったりとカナブんに焦点があっています。紐で結ばれたカナブンの浮遊感が良いです。

彫刻・立体造形の部

奨励賞



にわとり親子の箱庭
横山 豊



Crystal
松浦 良明

講評 (堀野 利久・長野 久人)

奨励賞「にわとり親子の箱庭」は繊細で丁寧な仕事で素敵な家族を表現されています。心和せる作品です。

奨励賞「Crystal」は、新しい表現にトライされている作品で魅力があります。もっと大きくなるとより良い作品になるでしょう。

今年の出品は11点でした。コロナによる影響、波はありますが未だ不安な状況が続く中、出品いただきありがとうございます。

工芸の部

一席



鍾馗さんに願を込めて
乾恵

講評（熊本 一哉・泊里 涼子・堀内 晴美）

川西市展を代表するお一人の作家さんです。私自身毎年楽しみにやってきましたが、期待以上の作品でした。こんな鍾馗さんがいらしたコロナも退散するでしょうね。表情がとても素敵です。細かいところにも注意し、丁寧に制作されているのがよく理解できる秀作です。

工芸の部

二席



歌いくらべ

羽倉 正

講評 (熊本 一哉・泊里 涼子・堀内 晴美)

二羽のフクロウが一生懸命、どうだ上手だろうと、歌い合っている様子が想像できる楽しい作品に仕上がっています。

三席



栃拭漆盛器

松井 宏二

講評 (熊本 一哉・泊里 涼子・堀内 晴美)

何よりも完成度の高さが秀でた作品で感心いたしました。拭漆によって栃材の杣目を際立たせ、滑らかな表面は思わず触れてみたくなる魅力があります。また、ふちの面取りがシンプルな器の形状を引き締めています。ご本人のコメントにもありましたが、大変な手間をかけられた力作だと思います。今後の制作活動に期待しております。

工芸の部

奨励賞



蒔絵硯箱
池之浦 大起



藍型染・タペストリー芙蓉
前田 道子



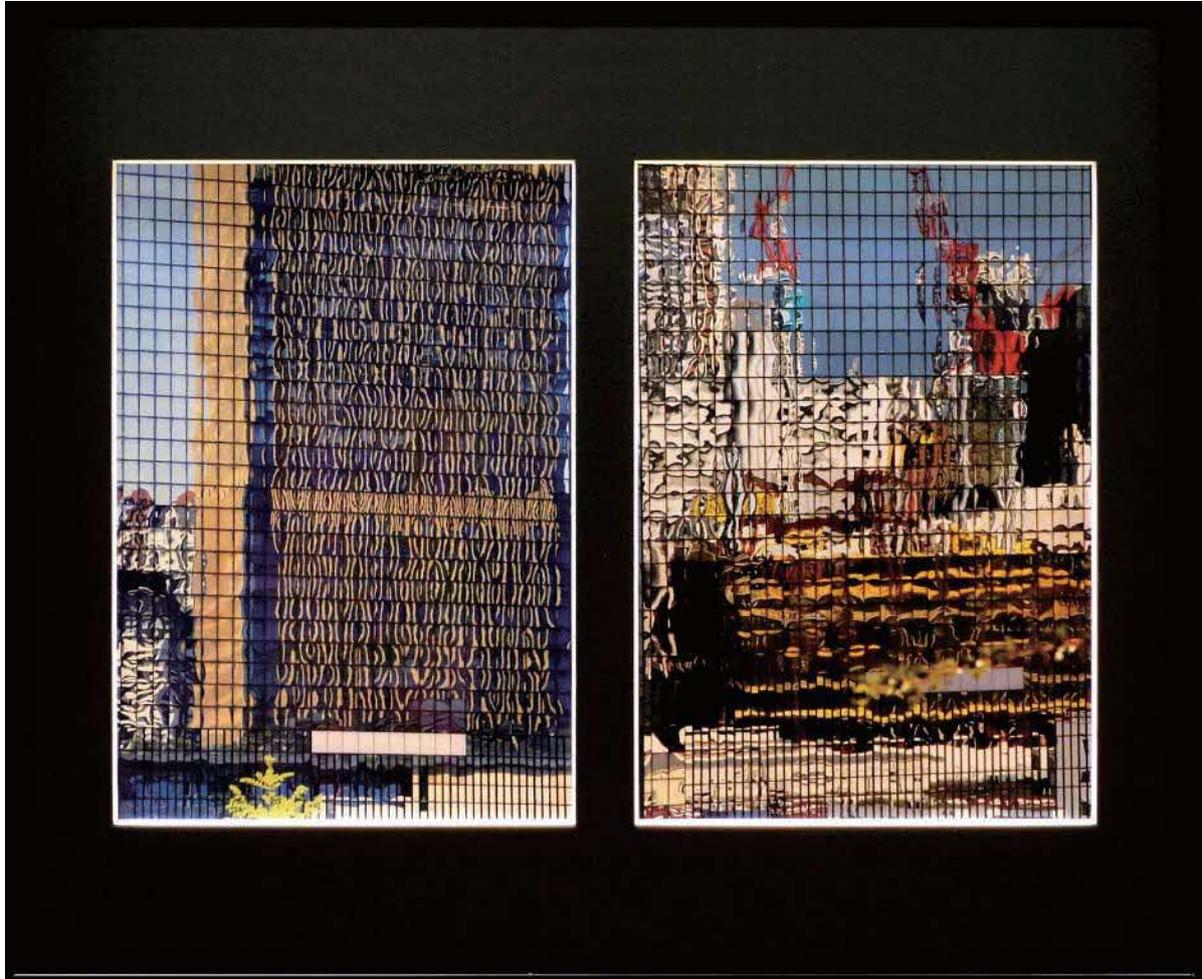
カレル橋とプラハ城
東野 昭

講評（熊本 一哉・泊里 涼子・堀内 晴美）

奨励賞「蒔絵硯箱」は、難易度の高い蒔絵の技術を習得され、大変な時間と労力を注がれた大作だと思います。これからさらに技術に磨きをかけ、オリジナル性のある作品を見せていただけることを期待しております。奨励賞「藍型染・タペストリー芙蓉」は、丁寧な形紙堀り、糊置き、何段階もの藍染、またその制作前には、多くの写生、草稿をされたことが察せられる良い作品です。これからは丁寧な物作りの上楽しさも形に表すことができればもっと良い作品になると思います。奨励賞「カレル橋とプラハ城」は、画材の選択に大変興味をそそられる作品です。ベニヤ材の素朴な風合いと高い画力が不思議な世界観を作り出していると思います。今後の制作活動を楽しみにしています。

写真の部

一席



リフレクション
宮脇 雪子

講評 (古家 輝雄・クキモトノリコ)

ビルの写り込みですが、望遠レンズの効果を活かしてデザイン的な視点で切り取られ、2点のバランスも良い作品です。プリント用紙の選び方も含めて非常に完成度が高く、選出しました。

写真の部

二席



朝陽
数藤 守治

講評 (古家 輝雄・クキモト ノリコ)

朝霧の立ち込める中に差し込んだ光をうまく捉え、その場面だけでも非常にドラマチックですが、犬の散歩をする人の歩幅とくるりと愛らしい犬のしっぽに、日常に潜むドラマが感じられる作品です。

三席



川面の怪人
常木 良一

講評 (古家 輝雄・クキモト ノリコ)

水面に映り込む西洋風の建物を窓の位置まで意識したシャープな構図で写し撮られているので、建物の存在感が強い作品ですが、反映の形が水面のゆらぎから歪の虚像の面白さに繋がっています。作者の表現力の意識の冴えを感じるのは、映り込み作品としてストレートに見せるのではなく、美の観念を越えて、実像のごとく上下反対にして、絵画風に見せた独特の表現力です。

写真の部

奨励賞



Fantasy
前田 千代子



貪欲
西村 謙之助



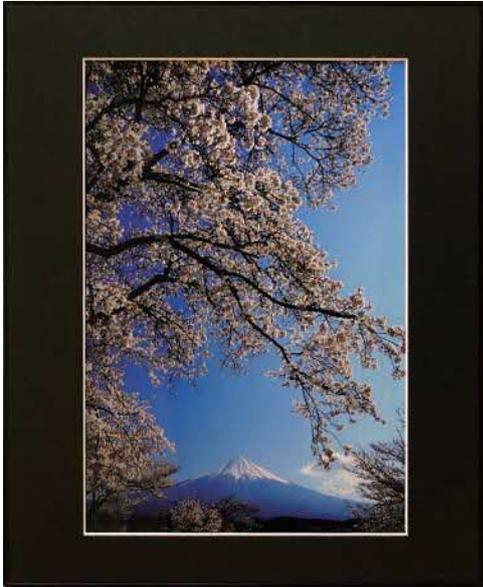
冬日射す
上月 正美



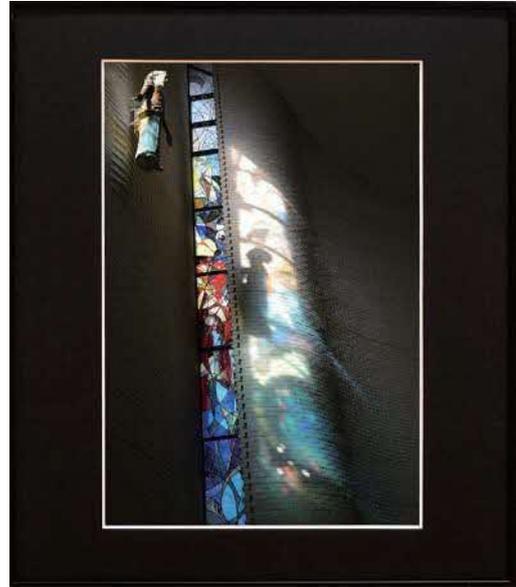
山寺
春元 昌三

写真の部

奨励賞



覗き見
清水 和男



木漏れ日の悪戯
天井 博章



光りの向こうに
桑原 弘子



秋田刈る
松尾 忠明

写真の部

奨励賞



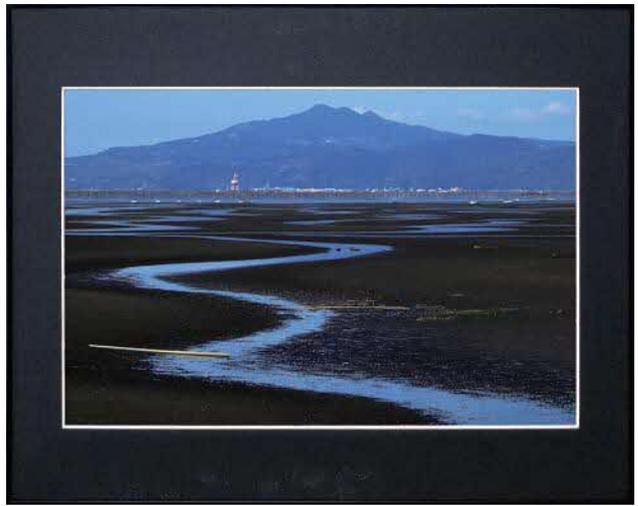
始動
牧 孝三



雄叫び
田中 富士夫



Want to climb... どこまでも
なかにし 宏明



御輿来海岸
魚谷 行重

写真の部

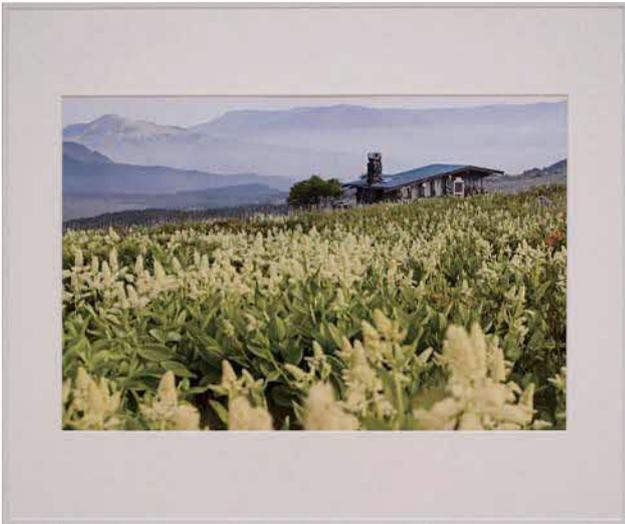
奨励賞



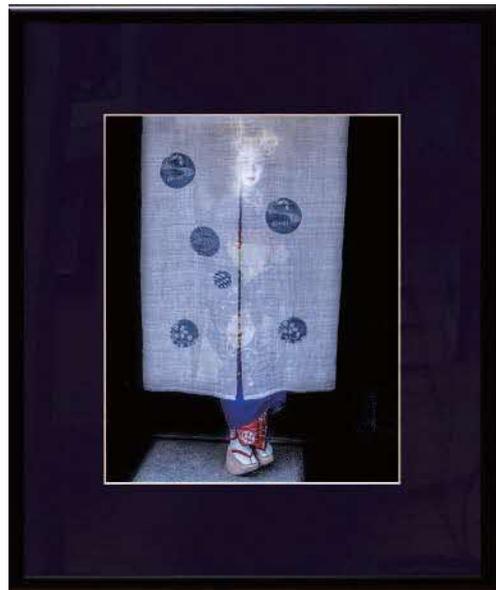
天空の花園
太田 茂範



再開発
竹本 賢一



咲き競う
丹生 隆



京暖簾
田中 孝

講評 (古家 輝雄・クキモトノリコ)

奨励賞もネイチャー、風景、スナップなどジャンルもバラエティー豊かで、斬新な画面構成の作品、光や季節を感じさせる詩情豊かな作品、大胆なアングルによる迫力のある作品など多種多様な技術的にも写真表現としても、レベル高い作品を選ぶことができました。

昨年に続きコロナ禍での写真部門は、日常の何気ない一コマに感じる小さな幸せや、久しぶりに出かけた開放感が伝わってくる作品が多く寄せられたように思います。そのような場面を写真で撮る楽しさ、また記録として残すことの大切さを改めて感じさせてくれる作品の数々でした。

一席／青木賞（市長賞）



いつも会話のツールはスケボーだった
Atelier Madoka

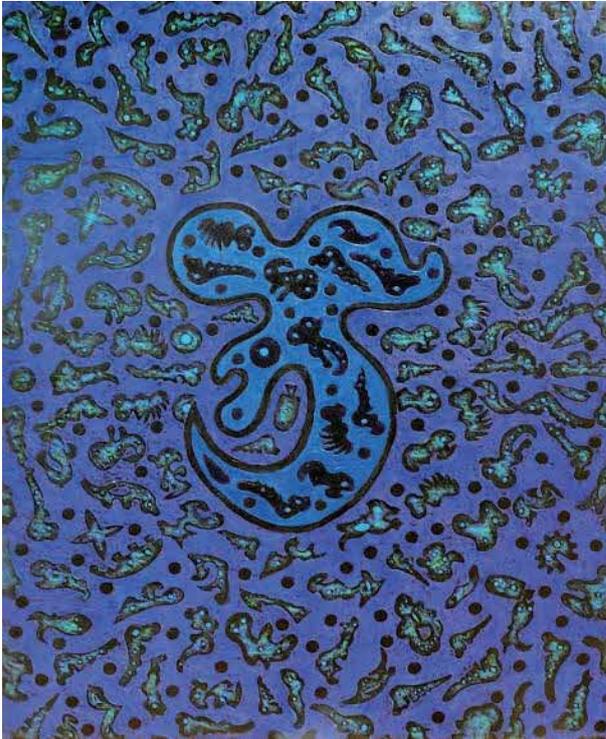
講評（森 倫章・神野 翼）

現代美術というものは、作品と言説が一つとなって表現として浮かび上がってくるもので、一席の作品である「いつも会話のツールはスケボーだった」は題名からもコンセプトが立ち上がってくる良作であると言えます。

昨今オリンピックの種目となったスケボーを会話のツールとして使う時代性は目に新しく、さらには蛍光色やビビットなトーンの絵具を多用した視覚的な目新しさも持ち合わせるなど、作品の観点、技法の両輪から優れた表現をなされたものとなっていました。

現代美術の部

二席



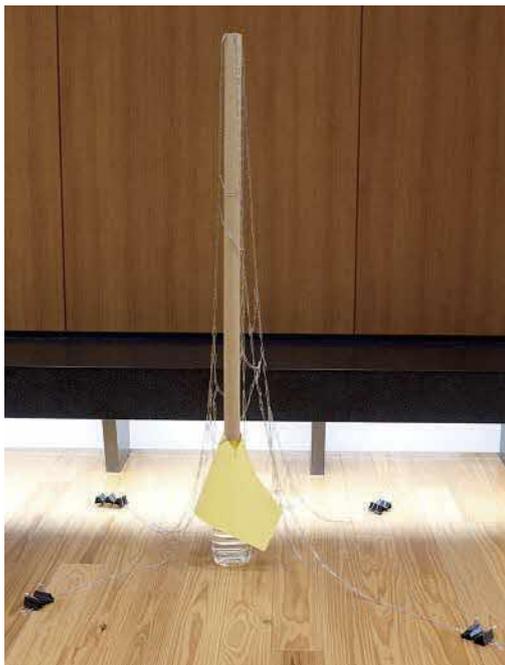
CONNECTION II

荻原 侃子

講評 (森 倫章・神野 翼)

技術の高さが見て取れる作品となっており、豊かなマチエールから立ちのぼるディテールは色彩の奥深さと相まって完成度の高い作品となっています。

三席



spread

南谷 喜彦

講評 (森 倫章・神野 翼)

レディメイドとも言える作品で、ある種役目を終えた無用の道具に美術としての有用の機能を与えたものとなっています。さらには、題名の持つ『展開』という意味合いが作品の持つ現代性を浮かび上がらせています。

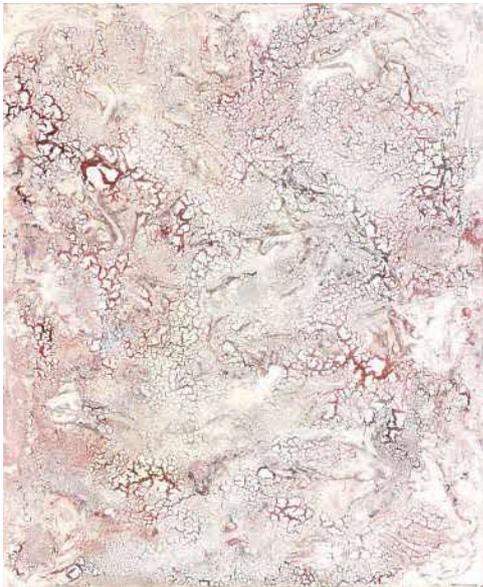
奨励賞



夢の跡
畠山 忠美



変化球攻撃
石田 貢



white out
松浦 良明

講評 (森 倫章・神野 翼)

奨励賞の作品は、表現として新たな挑戦を試みていることが感じ取れるものを選びました。閉塞感のある時代の只中で、新たな一歩を踏み出せるかのような作品たちであると感じます。

全体の総評として、賞として選出された作品は、ただそこにあるだけでなくコンセプトの中に現代の持つ時代性を内包させたものが選ばれました。

徒らに線を引くだけでは絵にならず、そこに時代性の伴う作家の思いが言説とともにあるのが現代美術となり得るのです。
